



カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
大 水 文 隆
印刷所
株式会社 藤木博英社
〒850-0852
長崎市万屋町5-13
Tel. 095-821-2146
Fax 095-821-2148

神のあわれみに根ざす刷新を目指して

教区シノドス始まる



いよいよ始まるの時を迎えた。この日、高見三司大司教は午後2時45分から浦上教会で開会ミサを司式し、この中で会議に出席するシノドス議員57人を任命した。ミサ後、会議場である大司教館に向かう議員に「教区が変わるよう期待していますからね」と声を掛けるミサ参加者の姿もあった。

日本の信徒発見150周年を迎えるにあたり、これからの長崎教区の新たな方向性を見いだすために開催される教区シノドス(教区代表者会議)が5月4日、

今回は5月6日までの第1会期。教区シノドス中央委員会(山脇守委員長)が本紙5月号に掲載した教区シノドスの「提言案」を議員たちは熱心に討議し、活発な意見交換を行った。

教区シノドスを招集した高見大司教は開会ミサで、「教区シノドスの大きな目的は私たちの教区の刷新であり、この刷新の芯は私たち一人一人の心

にある目標を作り替えるだけではない」と説教し、社会の周縁(Believa)に置かれた人に対して示されたイエスの愛を伝える人となるために、「教区を挙げて聖霊の助けを祈り求め、知恵と勇気と愛のたまものにかされて前進してまいりましょう」と呼び掛けた。

この会議の特徴の一つは、提言を受け取る高見大司教には、提言案に関する踏み込んだ発言を控えてもらっている、ということだ。また、信徒・修道者の発言が活発だったことも、特筆に値する成果だった。中央委員会は今回の会議の発言をまとめ、次回7月の第2会期を準備する運びとなっている。

信徒発見を経て現代に至るまで日本の教会と共におられる母マリアを囲んで着席し、会議が始まった。

2014 年度 行事予定		
月 日	行 事	備 考
5月 3日	2 教皇の列聖感謝ミサ	浦上教会
	教区評議会総会	カトリックセンター
	第134回クルシリヨ	5/6 まで
4日	教区シノドス (第1会期)	5/6 まで
11日	井持浦ルルド祭	井持浦
18日	雲仙殉教祭	雲仙メモリアルホール
25日	長崎中地区研修会	カトリックセンター
6月 26日	公開聖書講座	カトリックセンター
7月 20日	教区シノドス (第2会期)	7/21 まで
31日	沖縄平和学習	8/3 まで
8月 5日	広島ピース・スタディー	8/6 まで
8日	原爆殉難者慰霊祭	爆心地公園
9日	平和祈願祭	平和公園・浦上教会
15日	平和祈願祭	アルカス SASEBO
9月 2日	結婚講座秋コース開講	11/4 まで (毎週火曜日)
7日	大村殉教祭	大村市民会館
14日	教区シノドス (第3会期)	9/15 まで
21日	福者カミロ・コンスタンツォ殉教祭	焼罪史跡公園
23日	典礼憲章発布 50 周年記念講演	カトリックセンター
28日	聖トマス西と十五殉教者ミサ	中町教会
10月 5日	公開聖書講座	カトリックセンター
10日	第135回クルシリヨ	10/13 まで
12日	島原・天草殉教福者記念ミサ	南島原・原城跡
26日	長崎中地区研修会	カトリックセンター
26日	牢屋の窄殉教祭	久賀・牢屋の窄
11月 2日	教区シノドス (第4会期)	11/3 まで
9日	黒瀬の辻殉教祭	生月・クルスの丘公園
23日	教区民のための追悼ミサ	浦上教会
30日	平戸ザビエル祭	平戸文化センター
2月 1日	日本二十六聖人殉教記念ミサ	西坂公園
19日	大浦天主堂献堂 150 周年記念ミサ	大浦天主堂
3月 15日	日本の信徒発見 150 周年記念ミサ	浦上教会
16日	聖トマス西と十五殉教者記念庭園祝福式	中町教会
17日	日本の信徒発見 150 周年記念ミサ	大浦天主堂
22日	教区シノドス閉会	
	叙階式	浦上教会

4月27日バチカンで聖人の位に挙げられたヨハネ23世とヨハネ・パウロ2世の列聖感謝ミサが、5月3日午前10時から浦上教会で行われた。

ミサの始めに高見三司大司教は「このミサには、日本キリスト教団の藤井清邦牧師(長崎古町教会)と福田英樹牧師(長崎教会、日本聖公会の柴本孝夫司祭(長崎聖三一教会)が自主的に参加してくださいました。エキュメニズムは第2バチカン公会議が強調したこと

ですが、この公会議を招集したヨハネ23世とその精神を、しかし聖人という称号は、私たちから遠い存在にするために与えられたものではなく、まず神に栄光を帰すため、そして私たち信仰者の模範として身近にするためです。私たちは今日、列聖を感謝するために集いました。それは感情的に喜ぶことだけでなく、2人の生き方・考

え方を知ってそれに倣うということです。ですから、教皇様について書かれた本や彼ら自身が書いた本を読

列聖感謝ミサ



み、もつと聖人のことを知ってください」また聖人たちの模範である「刷新と対話」が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『自分たちのあり方・考え方を根本的に刷新しながら対話する』これは教区シノドスにとっても大切なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

です。『刷新と対話』が、翌日から始まる教区シノドスにとっても重要なこと

人事異動・任命



洗者ヨハネ
長谷功師が引退

46年にわたって司牧に専念された洗者ヨハネ長谷

功師が引退されることになった。これまでの奉仕に感謝を表し、これからの健康を祈りたい。

略歴 1940年8月10日佐世保市生まれ。浅子教会出身。68年3月19日司祭叙階。同月浦上助任、72年

▼教区(5月7日付)
片岡 久司師 病氣療養
前田 達也師 稲佐小教区主任代行 (稲佐小教区主任)
▼教区(6月1日付)
長谷 功師 引退 (時津小教区主任)
古木真理一師 時津小教区主任 (教区本部事務局付)

のクリスチャン」(長崎の殉教者「浦上四番崩れ」小崎登明著「西九州クリスチャンの旅」永井隆著「乙女峠」古巣 馨著「ユスト高山右近」を読み、「ワレラノムネアナタノムネトオナジ」と告白した信者たちの信仰に触れる(本紙5月号1面参照)。

②教区シノドスの充実を図る
教区に新たな方向性や機運が

③普遍教会の信仰の堅実な継承
家庭が小さな教会であることの認識を深め、家族そろって祈る習慣を伝える、またみことばに養われるために聖書愛読運動に取り組む。

生まれるよう、聖霊の導きとマリアの取り次ぎを願う(「ロザリオ」)「教区代表者会議会期中の祈り」など。

ヨハネ23世とヨハネ・パウロ2世列聖式

いつくしみの聖人たち

―聖霊の協力者となった2人の牧者―

瞬間、参列したバチカン広場の会衆とその場に参集できずローマ市内17カ所で生中継される大画面の前で祈る70万人の信者たちは、拍手と共に「アーメン、アーメン、アーメン」と唱和した。すると、世界中から集った素朴な信者たちの賛美に応えるかのように、それまで霧雨を降らせていた雲間から薄日が差した。傘を仕舞い「神をたたえ、主を賛美せよ」と歌う信者たちの顔はみな天を仰いでいた。長崎教区からは、33年前初来日した教皇ヨハネ・パウロ2世により叙階された岩村知彦、烏山邦夫、古巣馨と、ローマ留学中に教皇ミサで何度も侍者をつとめた葛嶋秀信が列聖式に参加した。

いつくしみの聖人

翌28日、バチカンの官報オッセルヴァトーレ・ロマノ紙は「いつくしみの聖人たち」という見出しで、フランシスコ教皇の説教をもとに2人の列聖の意義と受け継いできた教会の信仰の核心に触れた。

教皇フランシスコは説教の冒頭、当日朗読された書簡(使徒言行録2・42〜47、Iペトロ1・3〜9)と福音(ヨハネ20・19〜31)をもとに、聖人の列に加えられる2人の教皇の霊性を次のように語り始めた。

「復活の8日間を締めくくる主日を、『神のいつくしみ』にささげることを望んだのはヨハネ・パウロ2世教皇でした。この日の福音の真ん中にあるのは復活されたイエスの傷です。その傷はときにつまずきを引きますが、真の信仰を確かめるためにはなくてはならない傷なのです。神の存在を信じるためではなく、神が愛であり、いつくしみであり、約束に忠実なお方であることを信じるためにです。そのお方の『お受けになっ

た傷によって、いやされた』(Iペトロ2・24参照)真面目で無骨な人はひざまずいて言います。『わたしの主、わたしの神よ』(ヨハネ20・28)と。2人はイエスの傷に触れてひざまずいた聖なる人たちです」

イタリア出身のアンジェロ・ジュセッペ・ロンカリ(ヨハネ23世)とポーランド出身のカロル・ヴォイティワ(ヨハネ・パウロ2世)、2人は20世紀を生き、その歴史の悲惨さを誰よりもよく知っていた司祭、司教、教皇だったと指摘して、教皇フランシスコは続ける。

「勇気をもって必死にイエスの傷を仰ぎ、刺し貫かれた脇腹に触れた2人は、キリストの十字架とその惨めさを恥とはせず、つまずきもしませんでした。その証拠に、2人は同じ時代を共に生きる兄弟たちの弱さや惨めさをも恥とはしなかったのです。なぜなら、2人は苦しむすべての人々のなかにイエスを見いだしていたからです。キリストの5つの傷によって示された神のあわれみは、2人の中で『生き生きとした希望』と『言葉では言い尽くせない喜び』(Iペトロ1・3、8)となつて宿つていたのです。復活した主のたまものとして与えられた喜びと希望を、最後まで2人から誰も奪い取ることはできませんでした」

そして教皇フランシスコは、この日2人の教皇が聖人の名簿に名前が記される理由を高らかに語った。「彼らは聖霊の大胆さをもつて、教会と現代社会に対して神のあわれみといつくしみを証した勇氣といつくしみの人だったからです。」この瞬間、会場からは教皇の説教を遮るかのようにならぬと拍手と歓声があがった。51年前と9年前に務めを終えて逝った2人の教皇が、現代の社会と教会に対してどのようなしになったか、みな知っていたからだ。

2人の聖人の役割

昔も今も聖人たちの役割ははっきりしている。傷みかけた教会を修復し、人々のうめきに応えて働く聖霊のささやきに静かに耳を傾け、その協力者となり心底仕えて生きることだ。教皇は2人が聖人として担った役割について語った。「ヨハネ23世は第2バチカン公会議を招集することによって、聖霊の働きに静かに耳を傾け、忠実にしかし単純に従う人の姿を示しました。」彼は、第2次世界大戦で疲弊し希望をな

くした人々が神と教会から離れていく中で、「今、教会は何をすべきか」と聖霊に忠実に聞き従う牧者であり、「聖霊に奉仕する教皇」だったと指摘した。何人が奉仕するものに造り変えていくのか、奉仕する教会とは何かを証した聖ヨハネ23世は、第2バチカン公会議から半世紀を経た現代教会に、その使命の本質である「仕えるとは何ですか」と静かに問いかけている。

「公会議から私たちの教会は変わりました」と語ったカロル・ヴォイティワは、変わり始めた内容を自ら生きて見せた教皇にしようとしたバチカンを飛び出す新しい教皇を、マスコミは(空飛ぶ教皇)と命名した。そして就任3年目、自ら巡礼者と名のつて日本訪問。しかし、その3カ月後にバチカンの広場でトルコ人青年に狙撃。一命を取り留め奇跡的に回復すると、青年を抱きしめるため刑務所に向かった。諸宗教の対話、2000年の教会の記憶の浄化、憎しみと報復の連鎖を断ち切るための和解への仲裁。晩年はパーキンソン病を背負い、顔はゆがみ身を引きつつた牧者の風貌は、見るべき面影もない神の預言者を彷彿とした。

教皇フランシスコはヨハネ・パウロ2世の役割について指摘する。「ヨハネ・パウロ2世は神の民に仕える『家庭の教皇』でした。かつて彼は、自分のことを『家庭の教皇』として思い起こしてほしいと述べたことがありました。病んで傷ついている家庭と、今共に歩んでいる教会を、ヨハネ・パウロ2世も天からこの歩みに同伴し、支えてくれると信じています。」キリストの教会はそれぞれの家族という「家庭教会」を核にする。家庭の危機はいのちの危機。教皇就任2年目の1980年、彼が最初に招集した世界代表司教会議(シノドス)のテーマは「家庭」だった。それを受けて出された使徒的勧告「ファミリアリス・コンソルチオ(家庭)」は、傷つき壊れた家庭へのいつくしみに溢れている。あれから33年、フランシスコ教皇はこの秋再び「家庭」についてシノドスを開く。その心はヨハネ・パウロ2世と同じ牧者の心だ。

「この2人の聖人が教会のために執り成し、仕える教会が聖霊に忠実に聞き従うことができましように。私たちもキリストの傷につまずくことなく、神のいつくしみの神秘にさらに深くあずかる道を教えてくださいますように」と、祈りをもつてフランシスコ教皇は説教を結んだ。ミサの最後に教皇は、2人の傍らにはいつもマリアが母としていてくれたからこそ、彼らは絶えず励まされ強められたと述べ、自ら「サルヴェ・レジーナ」を先唱すると、150万人の信者が一斉に後に続き、再びローマ中が賛美の声に覆われた。こうして、感動と湧き立つ思いの中で列聖式は終わった。

単純さと簡素さの中に

「夜中は寒く、会場に入る前の大群衆と恐怖、しかし最後はただ喜びだけ」イタリアの一般紙ラ・レブプブリカの見出しは、世界中から参加した信者たちの姿を4ページにわたって掲載した。真夜中に並んだ80万人の信者たち、その中に長崎の4人の司祭も加わった。3時間でわずか25メートルしか進まない行列。それでも、ロザリオを唱え聖歌を歌い、皆が巡礼者となった。激動の時代の教会を導いた2人の教皇の列聖を通して、真実なこと、いつくしみ深いものに会い、これから歩むべき道を示してもらえると素朴に信じて祖国を出てきた人たち

聖ヨハネ23世 「善良な生活のあり方を探り刷新す教皇」と呼ばれたアンジェロ・ロンカリは、1958年10月28日、ビオ12世の後継者として教皇に選出された。62年には第2バチカン公会議を開幕し、教会の教えを忠実に守りながらも、時代に照らした教会と信仰

聖ヨハネ・パウロ2世 「空飛ぶ教皇」と呼ばれたカロル・ヴォイティワは、1978年10月16日、ヨハネ・パウロ1世の後継者として選出され、10月22日に着座した。26年5月17日に及ぶ在位の中で、日本を含む各国を訪問。祝日は教皇就任の日当たる10月22日。

聖人教皇の祝日

である。体調を崩して倒れる人をいたわり手当しながら、共に聖性への旅を続ける神の民の姿がそこにあった。

せり上がるほどの窮屈さの中で、12時間待ち続けて始まった列聖式は、看板も垂れ幕も何の飾りもない淡々として清楚なものだった。司式したフランシスコ教皇が歌ったのは「信仰の神秘」だけ、祈願も叙唱もすべて唱えた。聖体拝領は600人の司祭と270人の助祭が担当し20分でお応え、式は1時間45分で終わった。「簡素な生活と兄弟愛のうちに福音の本質である愛とあわれみがあるのです」と、教皇自ら説教で語ったことが列聖式の形になった。そのさまをニューヨークタイムズは「現代的な2人の教皇のための古典的な典礼」と評した。古いものと新しいものを収めている教会の信仰の倉(マタイ13・52)を、この日、参加者は目の当たりにしたにちがいない。

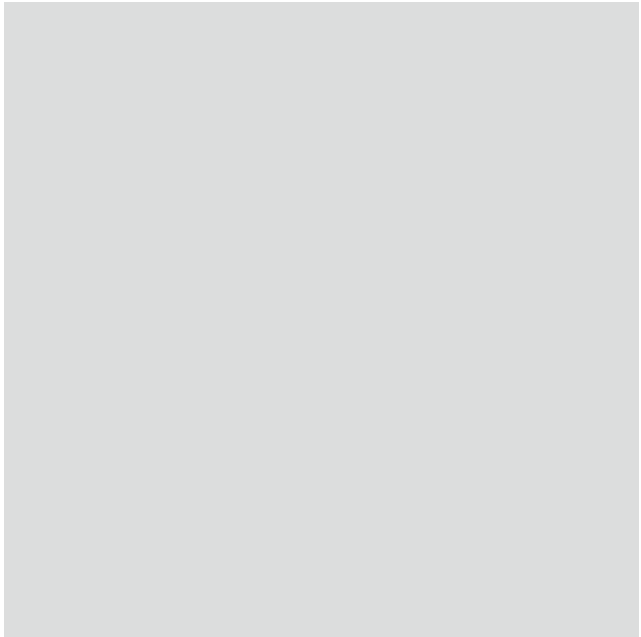
司教も司祭も修道者も信徒も、参加したほとんどの信者が片手には携帯カスマートフォンを持ち、教皇が動くたびに盛んに記憶に残そうとつま先立ってシャッターを切る。しかし、もう片方の手には現代社会から突き付けられた課題と不安を抱えている。その手は貧しく痛ましいほどみずばらしい。それでも、ローマには希望と喜びがあった。2人の教皇を聖人の名簿に書き加えたフランシスコ教皇の生きざまが、いま明らかに教会のともし火となっている。

アッシジの町の入り口には、相変わらずバチカン宮殿に住まず聖マルタの質素な宿から毎朝執務に通うフランシスコ教皇の霊性が一行でつづられていた。「単純さの中の単純さ、簡素さの中の簡素さ」。これから何を捨て、何を取り戻すのか。どのように変わり、現代社会の真の救いの道具になるのか、世界がカトリック教会に注目している。長崎と日本が長崎の教会にまなざしを向けている。イエスが名指しで呼んだペトロの2人の後継者が、今聖人となつてその道筋を示してくれている。

(古巣馨)

列聖式における教皇フランシスコの説教

キリストの傷跡に触れる



イエスの栄光ある傷

復活祭を祝う8日間を締めくくる今日の日曜日は、聖ヨハネ・パウロ2世が「神のいつくしみの主日」とすることを望まれたが、その典礼の中心テーマは、復活したイエスが示した栄光ある傷です。

イエスは安息日の翌日、すなわち復活の日の夕方、初めて使徒たちに現れたときに、すでにこの傷を彼らに示しておられました。しかし、いま福音の朗読を耳にしたとき、その日の夕方、トマスはそこにはいませんでした。他の弟子たちがトマスに、主を見たと言ったとき、彼は、その傷跡を見

その傷口を自分の手で触れない限り信じない、と答えました。それから8日の後、イエスは再び食事の広間にいた弟子たちに現れ、今度はトマスもそこにいました。イエスはトマスの方を向いて、ご自分の傷に触れるよう招きました。すると、この正直者で、しかし何事も自分で確かめなければ気の済まなかったこの弟子は、イエスの前にひざまずき言ったのです。「わたしの主、わたしの神よ」(ヨハネ20・28)。

イエスの傷は信仰にとつてつまずきですが、それはまた信仰を証明するものでもあります。そのため、復活したキリストのからだには、その傷はなくならず残っているのです。これらの傷は、わたしたちに対する神の愛の消えることのないしるしであり、わたしたちが神を信じるためにはぜひ必要なものだからです。それらの傷はしかし、神の存在を信じるためではなく、神が愛であり、いつくしみ深い方、信頼できる方であることを信じるためにあるのです。聖ペトロは、イザヤを引用しながら、キリスト信者にこう書き送っています。「そのお受けになった傷によって、あなたがたはいやされたのです」(1ペトロ2・24、イザヤ53・5参照)と。

マリアと共にイエスの傷を仰ぎ見る

聖ヨハネ23世と聖ヨハネ・パウロ2世は、イエスの傷を仰ぎ見、その手足の傷跡と、刺し貫かれた脇腹に触れる

勇気をもっていました。傷つけられたキリストの肉体を恥とせず、キリストとその十字架に近づきませんでした。2人の聖人は兄弟の肉体のしみえさを恥としませんでした(イザヤ58・7参照)。苦しむすべての人々のうちにイエスを見いだしていたからです。2人は聖霊に満ち、真理を語る勇氣ある人で、教会と世界に神の美しさのそのいつくしみを証しました。

2人は20世紀を生きた司祭、司教、教主でした。その時代の悲惨さの中を生き抜き、しかし、その苦難に打ちのめされませんでした。彼らのうちにあって、神はもつと力強い方でした。人類のあがない主であり、歴史の主であるイエス・キリストへの信仰がもつと力強く働き、キリストの5つの傷に示される神のいつくしみは、彼らの中でさらに力強かったからです。マリアが母としてすぐそばにいて彼らを支えてくださったからです。

聖人に宿る希望と喜び

キリストの傷を観想し、そのいつくしみの証し人となったこの2人の人のうちには、「生き生きとした希望」が、「言葉では言い尽くせない、すばらしい喜び」(1ペトロ1・3、8)と一緒に宿っていました。復活したキリストがその弟子たちにお与えになったその希望と喜びは、何ものも、そして誰もそれを奪うことのできないものです。この復活の希望と喜びはしかし、繰り返し繰り返し返り剥ぎ取られ、無一文にされ、罪人たちのひとりになるという極限の、それも苦しい杯を取り除けてほしいと願うほどのまでの、試練を経て与えられたものでした。それこそが、2人の聖なる教皇が復活した主からそのたまものとして受けた希望と喜びであり、それを彼らは神の民に豊かに与えてくださった

再び家庭を振り返る ⑬

教区家庭特別委員会

内野 洋平

「人間理解」

昨年、当委員会主催で行われた研修会で講師として来られた森一弘司教様の講話を思い返しています。森司教様の研修会のテーマは終始「人間理解」ということでした。研修会を通じて感じたことは、誰もが現在の自分を受け止めてもらいたい、肯定されたい、認めてもらいたい、理解されたいという自己肯定感の願いを抱きながら、家庭で、教会で、社会で必死にもがきながら生きている現実にあつて、人と人が生きていく上で前提となる信じる喜びをどのよ

うに見いだしていきたらよいか、ということでした。

引退された前教皇のベネディクト16世は回勅「神は愛」の中で、「人をキリスト信者にするのは、倫理的な選択や高邁な思想ではなく、ある出来事の出会いです。ある人格との出会いです。この出会いが人生に新しい展望と決定的な方向づけを与えるからです」と述べています。

比較社会、競争社会の厳しさにあつて、自分で自分の存在価値に真の意味で価値を見いだせない、理解されたいという自己肯定感の願いを抱きながら、家庭で、教会で、社会で必死にもがきながら生きている現実にあつて、人と人が生きていく上で前提となる信じる喜びをどのよ

うに見いだしていきたらよいか、ということでした。

引退された前教皇のベネディクト16世は回勅「神は愛」の中で、「人をキリスト信者にするのは、倫理的な選択や高邁な思想ではなく、ある出来事の出会いです。ある人格との出会いです。この出会いが人生に新しい展望と決定的な方向づけを与えるからです」と述べています。

く47参照)、エルサレムの初期キリスト教共同体のうちに息づいていました。この共同体には、福音の本質、いわゆる愛といつくしみが簡素な生活と兄弟愛のうちにあふれていたのです。

これこそ第2バチカン公会議が自ら描いていた教会の姿です。ヨハネ23世とヨハネ・パウロ2世は、聖霊に協力しました。それは、教会がその本来の姿、幾世紀にもわたり聖人たちが映し出してきた姿を取り戻し、教会を刷新するためでした。教会を前進させ、成長させるのは、まさに聖人たちであることを忘れてはなりません。

教皇自身、家庭の教皇として思い出し、もっていた、と言ったことがありました。家庭についての世界代表司教会議(シノドス)に向けて家庭と共に準備を進めているわたしたちのために、教皇が天国から一緒に歩んでくださり、支えてくださると確信しています。

在価値を保とうと必死です。何を「持つ」ことでしか自分自身で価値を肯定できないほどに、心に不安と痛みを憶えているのです。心のどこかで自分の存在そのものに価値があることを疑うのです。だから何度か何人かを傷つけるのです。でもその疑いから来る傷は、「信じたい」という強い心の叫びでもあるのです。トマスの不信仰(ヨハネ20・25)と思われる心の叫びに、強い信仰告白を見ることがあります。イエスは、そのトマスを受け止め、肯定し、優しく「触れなさい」というのです。感動的なイエスの人間理解の場面の一つです。

本来、教会は人間イエスとの人格的な温かい出会い(交わり)によって集められた人々の共同体です。倫理的な選択、高邁な思想も大事ですが、そのように生きられないでいる私たちに、人間の現実があることにまず目を向け、理解を示す姿勢を生き続けることが何よりも大切なことだと思ふのです。その生き方は、教会であろうと家庭であろうと、人と人が集まる社会において互いに共存していくための道を示された人間イエスの人間理解の姿に現れることができま

第134回クルシリヨ

5月3日から6日、イエズス会立山修道院で三村誠一師指導のもとクルシリヨが開催され、18小教区29人(男性13・女性15、助祭1)が参加した。26歳から77歳までの信者たちは、尊い祈りと犠牲に支えられ、神との関わりや自分が変わらなければならないこと、いっ

いっしょに

今年から始まる2年間の世界代表司教会議(シノドス)の歩みの中で、教会が家庭に対する司牧の奉仕において聖霊に素直に聞き従うよう、この神の民に新しく与えられた2人の聖なる司牧者たちが取り次いでくださいますように。わたしたちがキリストの傷にいつくしみの神秘をわたしたちの心に深く刻むように、2人の聖人教皇が教えてくださいますように。その神秘を生きるなら、いつも希望し、いつもゆるします。いつも愛するからです。

今年から始まる2年間の世界代表司教会議(シノドス)の歩みの中で、教会が家庭に対する司牧の奉仕において聖霊に素直に聞き従うよう、この神の民に新しく与えられた2人の聖なる司牧者たちが取り次いでくださいますように。わたしたちがキリストの傷にいつくしみの神秘をわたしたちの心に深く刻むように、2人の聖人教皇が教えてくださいますように。その神秘を生きるなら、いつも希望し、いつもゆるします。いつも愛するからです。

毎月第1土曜日に開催

みつあみの会主催による祈りの集い

教区シノドスのため、全教会のため、すべての人のために祈ることを目的として、「みつあみの会」主催による祈りの集いが今年3月から毎月1回、中町教会(主任 久志利津男師)で実施されている。

「みつあみの会」とは、長崎に本部を置く3修道女会(お告げ祈りなどを唱えた。今後原則、毎月第1土曜日に中町教会で行われ、主催者は「信徒の方々と一緒に、シスターたちが心を一つにして祈る機会としたい」と、多くの参加を呼び掛けている。

この日偶然に初めて参加したという女性信徒は、「このよう

な集いがあると知り、祈り自体にもとても感動した。もつと広く知っていただけるといい」と語った。

家庭の教皇

聖ヨハネ・パウロ2世は、神の民への奉仕において、家庭の教皇でした。

聖ヨハネ・パウロ2世は、神の民への奉仕において、家庭の教皇でした。

聖ヨハネ・パウロ2世は、神の民への奉仕において、家庭の教皇でした。

聖ヨハネ・パウロ2世は、神の民への奉仕において、家庭の教皇でした。

感謝

一 寄 付

長崎カトリック神学院
● 深堀信之様(浦上)
右の方からご寄付を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

信徒発見150周年と高山右近列福に向けて
これだけのことは知ってほしい ⑤

今、一番伝えたいこと

東京教区司祭 宮下 良平

はじめに

私は、東京教区司祭として叙階され21年を過ぎました。出身は長野県です。長崎県にはどこか異国情緒の雰囲気があるが、これがいいものがありました。大学時代に洗礼を受けるまで疎遠でした。洗礼を受けた後、初めて長崎を訪れたことを覚えています。長崎の教会のおおそかさと信仰の歴史を次の世代に伝えてきた神父様と信徒の方々の姿に感動したことを思い出しています。

さて、私のところに長崎教区広報担当の神父様から教報の原稿依頼が来ました。テーマは、「今、一番伝えたいこと」でした。私は何を伝えたいのかと思ひ悩む中で、私の「今」の仕事の中で学んだことをお話しすることにいたしました。

教会のミッションとは何か

私は現在、全司教様方が集まる司教協議会で決められた宣教方針や具体的活動などを実行していくためにある「宗教法人カトリック中央協議会」で働いております。小教区を離れて、この職場で3年働いています。そして、私は小教区の現場を離れて、この職場で働くようになって、実感としてあらためて学んだことがあります。それは、「私たちが生活する、働いている、今日のこの場にキリスト様がおられる、神の働きがある」ということです。この表現はいろいろな文章の中で目にします。私自身も何かの折によく話しておりました。しかし、とことん確信を持って、人々にその言葉を熱心で話していたかと問われるなら、そうではなかったのかもしれないと思うようになりました。

それは、会社などとは違ったカトリックの法人組織という職場に来て、「ここで働くミッションとは何だろうか」とか「会社などで働くことと、このような法人で働くのとどこが違うのだろうか」とか「自分が働いているこの組織での人事に関して、何

が問題で何を求められているのか」など、私としては考えつかない問題に直面いたしました。そして、答えの見えない直面する問題で悶々としている時、企業の人事担当者向けの人事マネジメントの基礎を学ぶセミナーに参加することにしました。企業は営利目的が全てで、私が働くこの宗教法人の目的とは全く違うから、人事の考え方も違うはずだ。だから、何か参考程度になれ

ばいい」という考えで参加しました。そのセミナーの講師は、人事制度関連の実務経験が豊富な方で、企業として人を育てるための多面からの考え方・取り組み方を講義してくれました。そして、最終的なまとめとして、まずその企業のミッションを明確にすることから、すべての企業活動、人事マネジメントが始まることを強調していました。そのセミナーを終えて、私は驚きと喜びを感じました。それは、講師の話している内容が、実は、いろいろなところで、教会が絶えず行ってきたこと、目指していたこと、先人の司祭たちが行ってきたこと、聖書の具体的な箇所にとんとが記されていることに気づかされたからです。そして、そのセミナー後何日かしてから、私がある職場、私たちの教会のミッションとは何かを自問するようになりました。

「なん」と「そと」を結ぶ方

私たちが日曜日に小教区へ行く目的は、主日のミサに参加するためです。平日の昼間は、仕事をしていたり、家事をしていたり、学校に行ったり、家にいたり、病院にいたり……、教会と関係ない生活を送っていることと多くの信者の方々は思っていることでしょう。仕事は、教会とは違うからと割り切って生きている方々も多いでしょう。私もこの職場は小教区の司牧の現場とは全く違うと、1年以上思っていました。そして、教会のこととは全く関

係ないテーマのセミナーに、ある意味、わらをもつかむ思いで参加して、気づき、そして学んだことは、この職場の問題は、小教区にある現場の問題と共通するということでした。そして、この職場の問題は、教会という人の集まる場での問題であり、仕事場における問題であり、学校における問題であり、社会における問題でもあり、世界の各地で起こる問題でもあるという広がりを私に意識させてくれました。

それは、今自分が「ここという現場」で生き、働きながら、悩み苦しむ、時に絶望に陥ることは、「この場所」と「その場所」が結びつけて敷衍していることではないかと考えるようになりました。それでは、そのことを結びつけているのは誰かといえ、人を救うために生まれたイエス様ではないだろうかと思えたのです。そう思えたら、イエス様がこの世にお生まれになったのは、私たちと共にいられる救い主キリストとしてなのだ、スツと腹に落ちたように思えたのです。

イエスとミッションに生きる

ところで、正月田舎に帰った際、本屋に立ち寄りしました。その店の書棚に「ミッション」という題名の本(アスコム出版)があったので、題名に惹かれて購入しました。それはスターバックスなどのCEOだった岩田松雄さんという方が書いた本でした。その本の序に、「世界を変えた人たちは、何か『突き動かされるように』生きています。単なる自己の満足のためではなく、ミッションを持って闘っている。その使命感こそが、人々の期待を大きく超え、感動を呼び、社会を好転させる源泉となると私は信じます」と書いています。

そして、こんなことを岩田さんは言っています。「お客様を満足させるとか、ニーズを満たすとか、そんな目標では、人々を感動させることはできません。大きな愛を持って、大きく期待を超えていかなければなりません。日本の接客では、お客様が来れば『いらっしゃいませ』と声を掛けるのが常識です。ただお客様は、機械的に、反射的に発声された『いらっしゃいませ』という音と、心から感謝を込めて発した言葉を区別することができません。ドアが開けば自動的になる合成音声の『いらっしゃいませ』という言葉に感動する人など、だれもいません。よく来てくださいましたね」という真心が伝わるから、感動するのです。ミッションがある企業からは、それが伝わってくる。そして、そこで働く人は常に自分がすべき行動をミッションと照らし合わせ、思考し続けています」(86頁)。

繋がりへの引き

信仰は、人を介した繋がりから生まれることがほとんどです。相手との何げない交わりや会話、目に見えないような小さな自分の出来事が、実は社会そして世界と繋がり、時代を超えた繋がりへと自分を引き入れてくれるのです。逆に、世界のある国のある場所です。起っていることが、実は自分が生きる今この場で起っている人間関係や出来事と繋がっていると気づかせてくれるのです。それを気づかせ、次に何かを考えさせ、行動を起こそうと力を与えてくれる方は、共にいてくれるイエス・キリストでありましょう。そのイエス・キリストをこの世にお与えになった父なる神は、聖霊の働きにより、イエスが私たちと共にいることを私たちに気づかせてくださいます。

繋がりへの引き

あらためて、私たちは自分の生きる場で、もうミッションに生きていると気づいてみたいかがでしょう。そこに、愛されている大きな喜びと感動として希望が実感できるのではないのでしょうか。

福江小教区設立100周年

信仰を受け継ぎ、伝える。をスローガンに



4月29日、福江小教区(主任 下口 勲師)は小教区設立100周年の節目を神への感謝のうちに迎えた。式典には高見三明大司教、浜口末男大分司教をはじめとする歴代主任・助任司祭、地区司祭団、出身司祭・修道者、地区評議会の教会関係者に合わせ、五島市長、世界

遺産推進協議会の行政関係者らも多数招かれ、小教区信徒と共に盛大に祝った。

「信仰を受け継ぎ、伝える」をスローガンに教会一丸となつて準備を進めてきたが、その一環として、ミサに先立ち新司祭館の祝別式と信仰の碑の除幕式を行った。新司祭館は下五島地区の共同司牧を見越して、協働司祭4人が生活できるように設備が整えられ、これを



拠点にさらなる司牧の充実を図ることとなる。記念ミサの中で高見大司教は労をねぎらい、社会における教会の使命を説いて信徒を励ました。下口師は小教区の歩みを、歴代主任司祭とその業績と共に紹介し、後世に伝え発展させようと呼び掛けた。

祝賀会では、1962年街を焼失させた福江大火でも無傷で残った教会が復興のシンボルとなつた様子を、シスターと子どもたちが紙芝居で披露し、これからも地域社会の灯となることを誓った。

白蟻調査無料・駆除工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士

大田白蟻研究所

代表者 マリア 大島 睦子
(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095-822-8436
FAX 095-822-8488

交通誘導警備 常駐警備 イベント警備

(有)小田警備保障

警備員募集!

電話 095-856-6524 FAX 095-856-6523
長崎県横尾3丁目31-15 代表取締役 パウロ 小田 睦

長崎南地区青年会主催
長崎ユースサマーキャンプ

日時 7月19日(土)～21日(月)
場所 浅子教会〔佐世保市〕
対象 青年(定員30人)
締切 6月15日
申込 中町教会(金 桐旭師 TEL 095-823-2484)
※詳細は申込み後、お知らせします

ご先祖に心より感謝を・・・

材石治明

長崎本店 長崎県市城栄町13-1 電話 (095) 846-3598
大村店 大村市民霊園内 電話 (0957) 50-3008

マイホームの美容と健康に!

(有)山川塗装

有限責任中間法人 全国住宅火災防止協会
長崎県建物営繕工事業協同組合理事

代表取締役 ベトロ 山川 進
佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330 FAX(0956)49-8729

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式

(有)栄光式典社

代表取締役 ヨハネ 西村 勇二
長崎県市辻町7-18 TEL(095)844-4011
24時間営業 FAX(095)843-9896

長崎大司教区現勢統計表 (2013/12/31 現在)

地域	長崎県	小教区	71	信徒数	司祭・他	総数
面積	4,105 平方キロ	準小教区	1	2011 年	62,174 人	968 人
人口	1,395,104 人	巡回教会	60	2012 年	61,634 人	950 人
カトリック	62,197 人 ⁽¹⁾	集会所	1	2013 年	61,262 人	935 人

小教区	信徒数			世帯数	洗礼		ミサ参加者			結婚				死亡
	男	女	合計		幼児	成人	主日	復活	降誕	信徒 同土	混宗 婚 ⁽²⁾	異宗 婚 ⁽³⁾	他宗 同土	
浦上	2,970	3,747	6,717	1,400	42	17	1,800	2,300	2,700	5	0	20	0	65
稲佐	310	372	682	289	7	3	200	300	380	0	0	3	0	9
城山	1,238	1,464	2,702	754	8	9	750	950	1,300	4	0	6	0	28
西町	1,106	1,311	2,417	792	8	4	800	1,500	1,500	2	0	10	0	29
本原	934	1,138	2,072	508	4	4	630	1,000	1,100	3	0	3	0	22
三ツ山	125	192	317	70	1	1	120	150	170	1	0	2	0	5
中町	564	747	1,311	440	7	6	500	800	900	2	0	17	13	19
神ノ島	202	263	465	173	3	0	150	240	240	0	0	0	3	10
木鉢	445	567	1,012	295	6	1	300	400	600	0	0	4	0	10
鮑ノ浦	741	988	1,729	525	6	4	350	500	500	1	0	5	0	26
本河内	74	97	171	55	1	1	40	80	90	0	1	0	0	2
八幡町	171	242	413	125	4	3	100	120	140	1	0	3	0	2
愛宕	271	501	772	222	0	0	140	280	280	0	0	0	0	4
大浦	336	450	786	333	5	2	250	300	300	0	0	3	7	11
大山	124	172	296	90	2	1	100	130	130	0	0	4	0	5
小ヶ倉	330	458	788	253	7	0	200	430	350	0	0	3	0	4
深堀	562	653	1,215	309	7	3	300	500	500	0	3	0	0	12
香焼	226	277	503	185	1	0	180	250	250	0	0	0	0	5
馬込	147	236	383	202	0	0	200	230	230	1	0	1	1	10
滑石	1,376	1,540	2,916	660	9	5	600	800	950	2	0	13	1	24
出津	295	382	677	234	1	0	250	400	450	1	0	1	0	14
黒崎	367	411	778	217	5	4	290	400	450	2	2	1	0	15
時津	509	596	1,105	314	4	2	350	700	700	0	0	1	0	11
長与	468	509	977	312	3	5	200	300	420	0	0	3	0	4
東長崎	633	804	1,437	379	5	4	350	550	650	0	0	6	0	6
植松	811	922	1,733	492	23	14	500	700	800	7	0	4	0	13
水主町	300	332	632	210	5	3	200	250	350	0	0	3	1	7
諫早	452	537	989	293	1	0	350	410	450	0	0	2	0	8
愛野	14	37	51	27	0	0	18	30	80	0	0	0	0	4
島原	62	81	143	73	0	0	35	70	80	0	0	1	0	1
湯江	80	273	353	47	1	0	240	240	250	0	0	0	0	3
相浦	509	620	1,129	480	8	1	400	520	650	1	0	4	0	18
三浦町	499	651	1,150	381	4	1	400	500	700	1	0	2	1	19
鹿子前	309	373	682	170	3	1	300	400	400	0	0	0	0	7
俵町	321	374	695	196	5	2	200	340	398	1	0	3	0	8
大野	487	562	1,049	311	2	2	250	350	350	0	0	4	0	8
浅子	431	462	893	202	8	2	150	150	250	0	0	4	0	8
黒島	230	254	484	220	3	0	220	300	300	0	0	0	0	4
太田尾	165	125	290	109	3	0	120	200	250	0	0	0	1	4
神崎	846	889	1,735	370	4	0	450	800	800	1	0	9	0	7
褥崎	417	382	799	215	12	0	300	550	550	0	0	1	0	7
大崎	251	314	565	136	5	0	350	400	450	0	0	3	0	2
天神	227	269	496	150	3	1	120	150	230	0	0	0	0	3
早岐	246	304	550	173	3	4	150	250	300	1	0	1	0	5
平戸	331	383	714	210	1	0	250	300	350	1	0	3	0	4
上神崎	246	246	492	144	1	2	250	350	350	0	0	1	0	12
宝亀	178	206	384	89	5	1	170	230	250	0	0	2	0	7
田平	327	387	714	220	3	0	300	350	350	0	0	1	0	12
紐差	531	652	1,183	283	3	0	300	500	600	0	0	2	0	14
西木場	293	328	621	191	11	5	200	300	400	2	0	1	0	5
平戸口	324	464	788	229	9	4	200	250	300	0	0	4	0	12
山田	130	182	312	62	1	0	100	250	250	0	0	1	0	2
青方	145	172	317	109	1	0	180	240	240	0	0	2	1	1
大曾	192	178	370	128	2	0	220	330	330	0	0	5	0	2
青砂ヶ浦	558	607	1,165	369	4	0	250	400	400	0	0	3	2	9
丸尾	208	219	427	163	2	0	200	250	250	0	0	0	0	4
仲知	120	128	248	136	0	0	150	200	230	0	0	1	0	6
曾根	275	285	560	204	0	0	250	400	400	0	0	0	0	5
鯛之浦	349	443	792	275	3	0	250	400	450	2	0	0	0	9
浜串	201	216	417	211	1	1	280	350	380	0	0	0	0	10
桐	328	324	652	200	2	1	220	300	300	0	0	0	0	8
真手ノ浦	217	163	380	133	1	0	130	250	200	0	0	0	0	5
土井ノ浦	188	204	392	77	0	0	120	180	200	0	0	0	0	8
福江	559	580	1,139	450	8	3	300	400	500	0	0	3	0	18
浜脇	43	43	86	39	0	0	40	60	60	0	0	0	0	1
浦頭	178	264	442	202	3	0	200	250	300	0	0	1	0	14
奈留	209	215	424	165	4	1	100	130	130	0	0	1	0	7
水ノ浦	281	301	582	164	4	1	300	450	400	2	0	1	0	11
三井楽	111	197	308	139	8	0	250	300	300	0	0	1	0	8
貝津	66	91	157	60	2	1	70	90	90	0	0	1	0	4
井持浦	71	66	137	55	1	3	50	80	80	0	0	2	0	5
総計	27,840	33,422	61,262	18,098	319	133	19,233	27,810	31,008	44	6	186	31	691

- (1) 長崎県内に居住する「司祭・他」と教区内の小教区に在籍する信徒の総計
(2) 混宗婚とは、カトリック信者とカトリック以外のキリスト信者との結婚
(3) 異宗婚とは、カトリック信者と非キリスト者との結婚

初夏の雲仙殉教祭

が雲仙メモリアルホールで開催され、2000人近い信者が参加した。ミサに先立ち、東長崎教会の子どもたち26人が、1月から日曜学校で練習を重ねて準備した朗読劇「古賀・東望殉教者の紹介と殉教者の心」を披露した。



好天に恵まれた5月18日、第31回雲仙殉教祭(教区主催・長崎北地区担当)

用し、スクリーンで殉教者の思いを表しながら、「あなたの心と私の心は同じ、窓を開けたら中が見える。教会のドアを開けましょう」と説いた。ミサ後、雲仙地獄のキリシタン殉教記念碑に巡礼し、神のみ旨を行う者となることができるよう祈った。参加した女性は「今、私たちはなんと平和な時代に生きているのですね。子どもたちの劇を見て、殉教者の信仰に對する熱い思いを再認識しました。帰ったら今の思いを家族に伝えたいと思います」と語った。

マリアに祈る聖母月

生活をしている中で、聖母マリア様と深いつながりを持つています。ますます深めて受け継がれた教えを大事にして信仰の道を歩んでいきましよう」と説教した。

5月11日、神ノ島教会(主任 川口昭人師)は航海安全祈願と高鈴島殉教を記念する「岬の聖母祭」を教会近くの海岸で行い、司祭・修道者・小教区内外の信徒ら約130人が参加した。ミサの前には聖母行列、子どもたちによる花まきも行われた。陽春の潮騒を聞きながらのミサの中で、下窄英知師(教区本部事務局長)は、「私たちは日常



下のカントリパーパークからロザリオ行列を開始(写真)。続いて井持浦教会でミサがささげられ、竹谷誠師(三井楽小教区主任)は、「初代教会にマリアの存在は欠かせない。教区シノドスの成功にも、教会の母マリアの取り次ぎが必要」と説教した。

巡礼ウォーク in 彼杵・大村

青年を対象に行われてきた教区召命促進委員会(岡秋美委員長)主催の巡礼ウォーク。8回目となる今年は「巡礼ウォーク in 彼杵・大村」と題し、5月4・5日の1泊2日で実施された。青年たちは、佐世保市の早岐教会から大村市の植松教会まで約40kmの道のりを歩いた。



4日午後2時、早岐教会を出発し、川棚教会を目指して歩き出した。青ささげ、親睦を深めた。夜は川棚教会の信者との楽しい交流会で温かいもてなしを受け、司祭館に宿泊。翌5日の午前9時、川棚教会から植松教会までの約23kmに挑む。彼杵の日本二十六聖人乗船地、大村の首塚・胴塚に立ち寄りながら約5時間かけて植松教会まで完歩。史跡を巡りながら信仰を見つめ、召命を考える良い機会となった。ゴールの植松教会には午後3時に到着。聖体訪問をして参加証明書を受け取り、記念撮影後、解散した。

「タイ・ボランティア」総括報告

ソロモン友の会 事務局 山口和彦



長崎コレジオが来年間鎖されることに伴い、コレジオ生による海外でのボランティア活動も2014年をもって終えることになりました。これまでソロモン諸島、タイ国のカレン族へのボランティアを行い、神学生養成の一環として活動してまいりました。

3月4日福岡を立ちバコンコ空港へ。チェンマイへの乗り換えに少々こずり、右往左往しながら無事チェンマイで阿部シスターの迎えを受け

活動を終えるにあたり、カレン族の村々を訪ね、これまでのお礼とお世話になったチェンマイの司教様、現地で協力を頂いた神父様、そして女子パウロ会の阿部羊子シスターへの感謝をしてまいりました。

一息つきました。翌3月5日は灰の水曜日、朝食を捧げようと皆で話し、早朝6時カレン族の村を目指し出発しました。高い山々と伐採された山岳の風景が珍しい山岳の風景が珍しく、学生たちから聞いた悪路に合わせ、車の激しいバウンドと共に遠くに来たことが実感されました。先発していたボランティア隊の待つホワイオーク村へ9時半に到着、長崎コレジオ副院長の山本一郎師と大阪教区赤波江豊師、コレジオ生の出迎えに思わず喜びが溢れました。手荷物を下ろし、先発隊と共にすぐ視察へ出発です。2台のトラックに13人が分乗。当然、学生を含む若者たちは荷台です！荷台グループは、もろにかぶる土煙と悪路ゆえのパウンドとの戦いであるで格闘技さながらのようでした。この1日で7つの村を回る計画です。途中で私たちが乗っていた車がパンクするハプニング。

JAFなどない山道、心配しましたが、現地の若者の素早い対応は圧巻でした。

メロン村では、ソロモン友の会より寄贈した鮑ノ浦教会の故西田金悟氏作成の鐘と出会い、感激しました。最初にボランティアでお世話になったデインカオ村では初仕事のルルドを見せてもらい、現地のチイ神父様手作りの昼食をご馳走になりました。パンホー村では阿部シスターが転倒し、皆心配しましたが、幸い無事に回復し、一安心しました。



午後3時の村々を訪ね交流を重ね、最後の7つ目の村へ着いたのが午後7時過ぎ。電気がないローソクの明かりの中で村人の心づくしの夕食をいただく、真つ暗闇に輝く星空の下を歩いて教会へと向かいました。ローソクの明かりの中で灰の水曜日のミサが始まりました。大勢の村人が参加し、バガニオン語と日本語でのミサが捧げられました。ほんの少しだけ村のおかれた環境と共に祈る心を共有できた時間でした。またボランティア

大槌ベースボランティア募集

長崎教区評議会は東日本大震災復興支援に関し、大槌ベースキャンプへのボランティアを引き続き募集し、協力を呼び掛けている。

- 7月10日(木) 16日(水) (6/25締切)
 - 9月18日(木) 24日(水) (9/1締切)
 - 10月16日(木) 22日(水) (10/1締切)
- 〔8月は定員に達したため募集なし〕
- 申し込みは所属小教区へ。問い合わせは教区本部事務局(松尾)まで。
- TEL 095・842・4450
FAX 095・842・4460

たが、村の皆様の温かい心をしっかりと受け取る事ができました。神学生たちが日本を遠く離れ、日本では考えられない不便な生活の中で村人と交わり、一緒に汗を流しながらの作業を行う中で得たもの、学生たちを再びボランティアへと駆り立てるものが何かを見いだすことができました。

コレジオ生と若者たちが心を注いだ教会はしっかりと現地に建ち、祈りの場として村人たちの生活に密着していることを見て取ることもできました、そして普遍的教会を思いました。

駆け足の視察でしたが、このボランティア活動に参加した神学生と若者たちが多くの素晴らしい収穫を得たことを、現地に引き初めて実感できました。あらためてこれまでの活動が無事にできたこと、またさまざまな形でご協力くださった皆様にお礼申し上げます。

と人との交わり、そして交わりが持つ召命への働きについてよく考えさせられた訪問でもありました。宿泊をさせていた村に帰り着いたのは深夜12時でした。

★ド・ロ神父と出津の娘たち
著 岩崎京子
絵 田代三善

明治12年早春、長崎県外海の出津という村に、フランス人宣教師ド・ロ神父がやって来た。そこで最初に目にしたのは、あまりに貧しい人々の暮らしだった。やがて神父は、出津の娘たちと村人たちの協力を得て、農業、医療、教育、井戸掘り、そうめん作りなど、さまざまな福祉活動で偉業を残した。

優しさや信仰をもって助け合いながら貧しさを乗り越えて生きる人々の姿を鮮やかに描いている感動の書。1985年に旺文社から発行されたものの文庫化。女子パウロ会、税別900円。

突然のマイナス発言ですが、6月ってなんかバツとしませんよね。1年の半分という節目なのに、この上ない中だるみ感！梅雨ですつと雨降ってジメジメしてるし、国際日もないし、とイイと思いつくかばんぜよ!!と6月とは全く無関係の、しかも旬でもない坂本龍馬風味を加えてみると、何ともクオリティーの低いことをしても6月は太刀打ちできないイメージです。

まあそんな0勝100敗のボクサーみたいな6月だからこそ何でもありみたいな気も逆になります。例えば、世の中じいややジューン・フライドなんていつて結婚式を挙げるなら6月が一番ーみたいなになってますけども、ホントは梅雨やらなんだから一番向いてないんですよ。そこでホテル業界が一番売上が落ち込む6月にも式の予約があるようにキャンペーンしたらいつの間にか定着しちゃったみたいな話があるじゃないですか。(実際は諸説ありますので

みことばにふれて 107 岩下裕志神父 (浅子教会)



その真偽は不明です。言い換えるならば個人的な見解です。なので苦情は受け付けておりません。これを聞いて、『日本人って流されやすいよね』というのか、『ビジネスマ

『自分の体で神の栄光を現しなさい』 (イコリント6・20)

世の中いろんな考え方をしている人がいます。一つの言葉に対して皆が皆同じ行動をするわけじゃありません。教会の教え、聖書のみことばも変わることはないのに信仰を生きる人の生き方というのは、信仰の表現の仕方というのには人の数だけあります。とはいえスポーツと一緒に基礎がしっかりとできてなければ良い成果にはたどり着けません。何もなければボウーとするのではなく、何もないからこそ信仰の足腰をどっしり鍛える、なんて時に6月がなってくれたらいいなと、でもやっぱり雨はイヤだなと思っているワガママなわたくしなでした。

マリア

林チヨ修道女 (お告げのマリア修道会)



4月9日、平戸市民病

マリイ・フランシスカ

俵花子修道女 (至聖贖罪主女子修道会)



4月24日、老衰のため

院にて逝去。90歳。平戸市紐差町生まれ。1939年11月19日紐差修道院入会、58年7月19日初誓願宣立、66年2月27日終生誓願宣立。入会当初は、農耕の傍らカテキスタとして教会奉仕に励み、その後保育事業に携わり、長年にわ

活の中で神への賛美と日々の仕事を果たして奉獻生活を全うした。華道、茶道、仕舞、謡、短歌など日本の古い伝統にたしなみのある修道女だった。葬儀・告別式は4月26日、レデンブトリスチン修道院聖堂で行われた。

タンスの中身は入れたまま責任ある安全運送!! (見積り無料・荷造り発送も致します)

水浦運送

シモン 水浦 幹雄

長崎市上野町12-3

TEL(095)847-7151 844-1420

24時間営業・年中無休 受付時間 7:00~22:00

貨物保険有り

- 一般引越
- 小荷物
- 遠距離
- 荒ゴミ捨て
- 学生引越
- ピアノ運搬

主の平安

株式会社 五島式典社(斎場) 五島中央会館 五島留会館

代表取締役 ヨゼフ 浦 昭

24時間営業

五島市上津町 1385 番地 1 TEL (0959) 74-5551 FAX (0959) 74-5552

五島市奈留町浦 1899-1 TEL (0959) 64-3101 FAX (0959) 64-3102

教区平和推進委員会主催

平和学習参加者募集のお知らせ

- 沖縄平和学習 (申込〆切 6月30日)
日程 7月31日(木) ~ 8月3日(日)
訪問地 沖縄県那覇市、名護市、他
対象 長崎県在住のカトリック信徒の高校生
参加費 20,000円
その他 事前学習あり〔後日連絡〕
- 広島ピース・スタディー (申込〆切 7月7日)
日程 8月5日(火) ~ 8月6日(水)
訪問地 広島市
参加費 6,000円

* 申込み 教会に配布された申込用紙を主任司祭に提出
* 問合せ 平和推進委員会 (担当 吉村)
TEL・FAX 095-845-0117

なが さき せき ちよう

長崎石彫

ヨゼフ 岩永 博明

☎(095)862-2469

長崎市梁川町6-17 岩永ビル

石碑 納骨堂 墓地工事 墓地分譲 (高尾・本原他)

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網

エテルナ・ワコー(株)

代表取締役 ミカエル 溝口美義

〒858-0926 佐世保市大湯町586

TEL(0956)47-4380